

テーマ名

時代の変化に対応できる組合を目指して
～いつも前向き！ピンチはチャンス～

氏名：笹原 正徳

勤務先：富山整容協同組合

職位：専務理事

(要 旨)

1999年、「シザーズリーグ」というテレビ番組が火付け役となり「カリスマ美容師」ブームが起きました。これにより高校生の間で将来なりたい職業として美容師が上位にランクされるようになり美容全盛期を迎えましたがその後、無資格者問題などが発覚しブームは終息の方向へすすみ、これにより新規就業者の激減へとつながっていきます。美容業は手仕事ということもあり人材の確保や技術・技能の修練そしてサービス業としての接客技術の向上が欠かせません。中小零細企業や個人事業主が多い業界にありながらも常に人材教育、人材育成に力をそそぎながら働きやすい環境づくり、美容師の資質向上に向けてこれまで当組合が時代の変化の中で歩んできた道のりを記しました。そして若者たちに夢と希望を与えつづけ美と健康を通じて社会に貢献できる美容業界を目指して組合事業として何ができるかをこれからも日々研究し、行動に移していくことが大事と考えております。

目 次

1. はじめに・・・私が美容業界に入って感じたこと	17
2. 富山整容協同組合の設立	17
3. 美容学校設立に向けて	18
4. 学校法人化に向けて	21
5. 今こそ産学連携を目指して・・・そして夢のある美容業界へ	22

1. はじめに・・・私が美容業界に入って感じたこと

私が美容業界に入って感じたことをまずはお伝えしたいと思います。一番驚いたことはこの業界で仕事をしている美容師の皆さんが自分の夢に向かって前向きに日々ものすごい練習量とすごくレベルの高い内容の研修をしているということです。どんな職業でも練習は必要なことですが特に美容の世界は技術面と接客サービス面の両方お客様に満足をいただかなくてはなりません。ヘアスタイルを創るという技術面では一人一人のお客様にしっかりと対応できるように髪質や骨格にあわせたスタイル作りやお客様の求められる要望に応じていかななくてはなりません。職人のようにひたすら技術を磨きあげるのも十人十色のお客様に合わせるために幅広い技術が求められます。

また、接客サービス面に関してはまだヘアスタイルをきれいにしてもらっただけではなく幅広い年齢層のお客様、そして職業もさまざまなお客様との会話や接客サービスにはたくさんの知識が必要になります。美容学校を卒業したばかりの人生経験の少ない20代の若者たちが大きいサロンでは15名～20名ほどのスタッフをまとめながら大好きな美容師の道を大きな夢に向かって日々頑張っている姿に本当に「すごい」と心の底から衝撃を受けました。そんな美容師さんの集まりが1995年に「富山整容協同組合」を設立し私の美容人生がスタートしました。

2. 富山整容協同組合の設立

この組合の「整容」という名前の由来は「容姿を整える」から付けたもので髪型を整えることはもちろんのこと頭のとっぺんからつま先まですべてにおいてきれいに整えるのが美容師の仕事であり、姿、形だけではなく心も整えるといった思いで名づけました。まさしくいまの美容業界はネイルやアイラッシュなどさまざまな新しいサービスがでてきております。当時、6組合員からスタートした組合はとにかく組合員のために何ができるかを常に考えて組合員同士が協力して運営をおこなってきました。

特に教育情報事業に関しては毎月東京から有名な講師を探してきては富山にお呼びして月曜日に技術勉強会を開催したり、組合員のオーナーやスタッフが交代で着付け、メイク、ネイルなどさまざまな技術講習会を開催してきました。入社3年目までのアシスタント教育ではオーナー自らが講師として美容師の心得から始まり電話対応や会話の質まで事細かに教え込みました。それは組合の伝統として先輩に教えていただいたことに対して感謝の気持ちをもって学び、今度は後輩へ自分たちが講師としてそれを伝えていくといった教育の中でスタッフ同士の絆や信頼関係、感謝の心など本当に

良い循環が生まれました。福利厚生事業では全員が集まって健康診断を開催したりレクリエーションとしてビーチボール大会やバーベキューなど厳しい技術講習会だけではなく和気あいあいとした楽しい企画もたくさんおこなってきました。

従業員教育では充実した教育活動をはじめとした組合活動に対し、新しい従業員の受け入れについてはそれぞれの事業所が美容専門学校を回って新入社員の確保に奔走する姿がありました。やはり新しい従業員が入ってこなければ業界としての発展はなく事業所としても同じで活性化しません。これからの組合活動においてみんなが一番困っている従業員の確保に組合が取り組んでいかなければならないという想いが日増しに強くなっていきました。

また、美容師としてサロンで働くためには美容師国家試験に合格しなければなりません。特に富山県では美容専門学校が1校しかなく慢性的な人不足が何よりの課題であり組合としても人材の確保が何よりも大事であると考えていました。そんな中、追い討ちをかけるようにカリスマ美容師の無資格者問題でさらに美容人気が落ち込みました。その問題を受けてかどうかわかりませんが美容師法も一部改正になり美容専門学校がこれまで1年制だったのが2年制になり1年間新卒の美容師がいない時期が重なりますます人不足に悩まされました。全国的に美容師不足が続くなか、組合立で美容学校ができるかもしれないという話が湧き上がりました。これまでも組合の中で技術の研修や接客の研修は数多くおこなってきましたが国家資格がないと美容師にはなれないのでいつかは国家資格が取得できる、そしてサロンですぐ役に立つ実践的な教育がしたいと思っていたので「美容師自らが美容師を育てる」を合言葉に組合立の美容学校設立に向けて動き出しました。

3. 美容学校設立に向けて

実際には全くの素人集団が学校を創りたいといったところで何から手をつければよいかもわからない状態でしたが詳しい人にアドバイスをいただいたり法律の本を調べたりありとあらゆるところへ相談にいきました。相談にいけばいくほど様々な問題にぶつかりまさに細い細い蜘蛛の糸をそーっと手繰り寄せていくような地道な作業の連続でした。時には悩んで悩んでどうしようもなくって心折れそうになったり本当に学校ができるのだろうか？と思ったことも何度もありました。

その時の問題点とは・・・

- ・校地・校舎の購入をはじめとした開設資金の確保をどうするのか。

- ・ 専属の教員は誰が担当するのか。
- ・ 新規での組合立の学校は前例があまりなかったので本当に大丈夫なのか。
- ・ 申請期間締切まで条件、書類等が間に合うのか。

(入学時期は4月のため遅れると1年先送りになる)

- ・ こんなに予算、時間をかけて本当に学生が集まるのか。

などと常に不安を抱えながらの取り組みでした。それでも「進みだしたんだから後戻りなんかできない。やるしかない」という気持ちでどんな壁にぶつかろうとも常に前向きに頑張ってる姿に関係者や行政の方たちも最初は「本当に大丈夫なの」という見方だったのがだんだん応援してくれるようになりどうやったら解決できるか！こうやったらいいのでは！と一緒に課題に取り組んでいただけるようになりこの設立に携わっていただきましたすべての皆様のおかげで2002年4月念願の「富山ビューティーカレッジ」が誕生いたしました。ようやくスタート地点にたどりついたものの休む暇なく今度は学生募集や学校運営について怒涛のような日々が始まりました。まずは学生募集ですが正式に許可がでたのがぎりぎりだったため初年度は定員30名に対して15名が一期生として入学してくることになりました。ただ何事も初めてづくしなので入学式はいきなり4月1日からスタートし、次の日から授業を開始しました。毎日教員全員で授業に参加し放課後は夜遅くまで反省会を繰り広げ翌日にはすぐに昨日の反省を活かしやってみては反省しの繰り返しという授業の進め方でした。とにかく良いと思ったものはやってみる！常に前に進みながら体当たりで学生にも接していました。こんな毎日を過ごしていく中で改めて再認識できたことがあります。私たちは美容師不足を何とかしたいというところからスタートしましたが本当にやりたかったことは・・・

- ・ 美容師になりたい人を応援したい、
- ・ 美容師という職を通じて人を育てたい
- ・ 若者たちに人としての生き方を伝えたい
- ・ 思いやりの心を大事にしてほしい
- ・ 損得より善悪で考えるようになってほしい
- ・ 素直な心を常にもってほしい
- ・ 周りの人のために何ができるかを考えられるような人になってほしい
- ・ 笑顔や元気の大事さ、誰にでも挨拶できるような人になってほしい

などが、気がついたら朝礼や終礼をはじめ学生に語りかけているとき、教職員で会議

しているときにいつも出てくるキーワードたちです。つまり私たちは「人を育てたい」「清く正しく美しい強い心を育みたい」という気持ちがなによりも大事にしていたことであり学校設立の目的だったのです。学校運営（手法）はまったくの素人集団であったかもしれませんが教育理念、教職員の想い、学生一人一人との関わり方など学校の志は長年やっている学校にも負けないくらいの強い志が学生達や教職員の日々の成長につながったのだと実感しています。この志はこれまで美容室のサロンの中でいつもスタッフに言い続けてきたことでありたくさんのお客様に教えていただいたことでもあります。まさしくサロン現場と学校でやっていることはまったく同じだったのです。このサロン現場の感覚と学校教育との一体感が組合立の学校ならではの特色を存分に活かした学校運営だったのです。「人は人の中で磨かれる」まさしく学校という小さなコミュニティーの中で磨かれた美容師の卵たちはさらに大きなサロン現場の社会の中で磨かれ成長していく姿を想像するだけでもワクワクしてきます。「技術の前に心が大事」心さえあれば必ず技術は付いてくる。そんな基盤が出来上がったあつという間の1年間でした。

2年目に入り1年生、2年生が揃って人数も倍になり先輩、後輩の絆もできヘアショーも開催することができました。国家試験は2年間の学校での成果が問われる瞬間でもあります。学生、教職員が一丸となって「国家試験全員合格」を目標に頑張ってきたことが見事に15名全員合格！という結果を得ることができました。ひとえに私たちの事を信じてついて来てくれた学生達、いつも応援してくださいました保護者の皆様、学校運営に協力いただいた関係者の皆様のおかげと心から感謝いたしております。

一期生の15名は一人もかけることなく無事に卒業式を迎えることとなりました。本当に感動の卒業式でした。式典後は保護者の皆様の企画で卒業パーティーを開催していただきました。そのパーティーでは卒業生一人一人がマイクをもって親に感謝の気持ちを伝える内容が盛り込まれています。それぞれが思い思いを語り涙しながら言葉に詰まってしまう学生もいます。それ以上に子供達の2年間の成長した姿に親の方が涙を流し感謝の気持ちが会場全体にあふれている素晴らしい卒業パーティーになりました。これは今も学校の伝統として引き継がれています。

ある方にこんな質問をされたことがあります。学校にとってのお客様は誰なのか？その答えは、保護者（社会）という言葉でした。学校は保護者（社会）から子供たちを責任をもって預かり卒業式にお返しする。その期間に学生はどう変わったのか。ど

んな成長があったのか。どんな心の成長があったのか。何ができるようになったのか。親元に帰した時に保護者（社会）が心の底から喜んでいただける人に育ったかどうかが一番大事である。決して学生をお客様だと思ふな。お客様扱いするな。という教えでした。まさしく卒業パーティーは2年間の集大成でありこの教えどおりできたかどうかを確認する場でもありました。

こんな熱い2年間を経験しながら富山ビューティーカレッジの挑戦はさらに続きヘアショーは800名収容の富山国際会議場で開催できるまでになり数々の技術コンクールにもチャレンジし2005年、2006年には全国学生技術コンテストCUT部門において2年連続の文部科学大臣賞も獲得いたしました。また、ボランティア活動にも積極的に参加することで地域の皆様にも愛される学校にまで成長しました。

4. 学校法人化に向けて

これまで一步一步確実に成長を続けてきましたが、社会の大きな変化の影響を受けるようなできごとがありました。2008年、アメリカ合衆国のリーマン・ブラザーズの破綻によるリーマンショックです。これにより日本経済も大きな打撃を受け高校卒業後に専門学校や大学に進学するのが金銭的に大変厳しいという時代に突入することとなり18歳人口の減少も加速し、学生募集が厳しい状態が続きました。さらに学校自身にも大きな問題点があり組合立のため、文部科学省の定める専門学校としての認可がないために

- ・学割が利用できない
- ・奨学金が利用できない

この2つが学生募集に大きな影響を与えました。これまでもこの2つの問題を抱えながらも学校の教育内容や実績でなんとか頑張ってきましたが実際に定員を下回る状態が続き、世の中の動きとしては奨学金を利用して進学する学生がますます増加する傾向にありました。このままでは学校存続の危機をいつか迎えるのではないかという不安が募るばかりです。この事態を乗り切るには組合立の学校から切り離し新しく学校法人を設立し専門学校として再出発するしかない、今ここで勇気ある一步を踏み出さなければ明日はない、ここを卒業していった学生たちのためにも学校を終わらせてはならない、なんとしてでも学校を継続させなければならない。そんな強い思いから新たな挑戦がはじまりました。

学校法人化の専門学校にするためには2つ課題があり1つは総収容人員が80名以

上でなければなりません。現在の総収容人員は1学年30名で2学年あわせて60名です。これは校舎の面積からこれだけしか受入れができず、80名にするには広い校舎に移らなければなりません。もうひとつは運営資金の調達でした。その金額は2年間分の運営費を学校所有で持つこと。校地、校舎も学校所有という内容です。これらをすべて寄附によって集めなければなりません。あきらかにそんな資金は組合にはありませんし集めること自体が考えもつかないくらいどうしようもないことをみんなが知っていました。どう考えてもなんとかなるような問題ではなかったのです。

そんな状態で2年くらいたったときに街の中心部に空きテナントがあるという情報がありました。もちろん賃貸の校舎ではだめなのですがそこは市が所有するビルの3階部分でいろいろ調べていくうちに地方公共団体からの賃貸であれば校舎として認めることができることがわかりました。これは願ってもないチャンスでした。すぐに問い合わせし面積を確認したところ総収容人員が80名はいれそうだということになり応募したところ2010年、新校舎への移転が決定いたしました。しかし運転資金の調達には至らず工事費用も銀行借入れによって準備するだけで精いっぱいでした。しかしこの新校舎への移転を決めたことは次の大きな一歩へつなぐと信じて今できることを一生懸命に取り組んでいくしかなかったのです。街の中心部へ移ったことにより商店街の皆様と一緒に街の活性化に向けて企画したり、学生たちも今まで以上に新しい経験の機会が増えたり学校として地域での活動やボランティア活動がますます充実しいろいろなところから声をかけていただくようにもなりました。この相乗効果は学校にとっても街の活性化にとっても大変意味のある成果をもたらしました。

そしてこれまでの組合員の頑張りや地域の皆様、関係者の皆様、保護者の皆様、卒業生、在校生のおかげさまで2012年4月、念願の学校法人 和楽学園 専門学校 富山ビューティーカレッジが誕生いたしました。

5. 今こそ産学連携を目指して・・・そして夢のある美容業界へ・・・

学校法人になったことで新たな世界が広がりました。これまでは全国の美容学校の仲間とのつながりがメインだったのですがそれに加えて県内をはじめ全国のいろいろな専門学校とのつながりができました。また、文部科学省の方向性や短大、大学と専門学校の違い、それぞれの目指す方向性など多くの学ぶ機会が増えました。それこそ長年、学校経営に携わってこられた先生方には学ぶことだらけですがそれぞれの業界に通じた専門学校の取り組みなど本当に勉強になります。

近年では文部科学省のほうでも専門学校的位置づけとしてより職業に必要な実践的かつ専門的な能力の育成に力をいれた専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能を学校教育に取り入れた職業教育を通じて、自立した職業人を育成し、その職業・業種の人材需要に応えていくことの重要性など専門学校のあり方が時代のニーズによって変化してきました。この考え方はこれまで私たちが組合として業界で教育してきたことの重要性を学校教育に取り入れ、組合と学校が一体となって取り組んできたものではないでしょうか。

もともとは組合の中で産学連携が実践されてきたことが社会的にも必要と認められ組合から学校が独立してもお互いの志は同じ想いで「美容師自らが美容師を育てる」自分達の業界は自分たちで切り開いていく覚悟でどんなに時代が変わろうとも「いつも前向き！ピンチはチャンス」を実践していきます。そして一人でも多くの若者たちが夢をもって入ってきてくれることを心の底から願っております。